



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第48回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えしていきます。

マナー編 用語は正しく!

野球放送の解説者が「ここは手堅くバンドで送りたいですね」。受けたアナウンサーが「バント、バント、バントですね!」と訂正を思わせるように「バント」を連呼しました。

「バットをスイングしないで、内野をゆるく転がるように意識的にミートした打球である」は、規則2・13に示されるBUNT(バント)の規定です。日常に言葉の澄む・濁るによる間違いは少なくありません。BAND(バンド)なら「団・楽団」を表す別の語になってしまいます。野球の現場で二つを混同することはないでしょうが、用語は言葉として正しく使いたいものです。外来語に対して、時に発音が難しかったり、日本語の語感に馴染みにくいこともあります。

例えば、6-4-3 のダブルプレイに関して、軸になる二塁手はピ**ポ**ットマンと呼ばれます。投手の軸足はピ**ポ**ットフットです。正しくピ**ポ**ット(pivot)でなくピ**ポ**ットと間違っていないですか? キャッチャー(捕手)をキャッチと呼んだり、ワンバウンド、ツーバウンドをワンバン、ツーバンと言うことも改めてください。「ワンパン」などは恥ずかしくなってしまいます。

最初の誤入力は修正しにくいものです。言葉は、その多くを耳から覚えます。次に目で確認することが出来れば間違いないでしょう。「野球用語=仲間内の言葉」ではありません。言葉には大切な意味が込められています。規則書の「用語の定義」を確認しながら、改めてベースボールを味わってください。



ルール編 3バント失敗のアウトは三振?

「3バント失敗」は三振に記録されると聞きましたが……。

「3バント失敗」、いわゆる「2ストライク後の投球をバントしてファウルボールになった場合」は、野球規則 6・05(d)の規定で打者アウトです。誰もが知る規則ですが、なぜ3バント失敗がアウトになるのでしょうか?

規則 2・73 は STRIKE の定義です。その(d)に「バントしてファウルボールとなったもの」と規定されています。つまり「3球目のストライクによるアウト(struck out)」で三振が記録されるのです。

ところで、スコアブックなどに三振を “K” で記入することがあります。奪三振記録の投手に贈る称号は “ミスターK” です。この “K” の由来には諸説あります。ストラック・アウトを “SO” と記していたのが、スティール・アウト(steal out=盗塁死)も “SO” で同じ頭文字となるため、struck の末字で “K” を表示したことによる…も一説です。

ただの「決まりごと」として受け止めるだけでなく、その一つ前を考えることで本質が知らされます。それは大切な興味の深まりです。

背番	1	2	3	4	5
4	0	0	0	0	0
9	I		8F	II	4-3
8	I	DP	6-4	I	II
	1-3		13	K	(四)
			II		(五) 13
			-4-3		

